



群馬大学大学院保健学研究科の作業療法学専攻の研究室を訪問



写真左は群馬県立産業技術センター、写真右は美原記念病院



近藤助教からは3Dプリンタを用いた生活支援器具

写真左は群馬県立産業技術センター、写真右は美原記念病院

9月4日は、前橋工科大学の学生3名も同伴し、群馬大学大学院保健学研究科の作業療法学専攻の研究室を訪問しました。群馬大学では、運動機能評価についての研究紹介と実機を用いたデモを、野口直人助教、秋山稜登助教、群馬パース大学の近藤健助教および留学生4名にご対応いただきました。

9月1日夜に成田空港に到着し、翌日に高速バスを利用して宿泊先の前橋市へ移動しました。移動後は、前橋工科大学の学生2名の案内により、研究室、教室、実験棟などのキャンパス施設を見学しました。9月3日は、前橋工科大学の神経電子計測システム研究室(主宰…小田垣准教授)を訪問し、研究室で実施している研究紹介や、実験システムの体験をしてもらいました。

今年9月1日から7日まで、デ・ラ・サール大学(フィリピン)の Institute of Biomedical Engineering and Health Technologies に所属する研究者4名を前橋工科大学に招へいしました。今回の招へいでは、日本の先端リハビリテーション技術と運動機能評価計測技術の体験を通じた人的交流を目的に設定しました。

招へい者4名は、

フィリピンから研究者招へい 先端リハビリ技術および 運動機能評価計測技術の体験



小田垣 雅人
(前橋工科大学准教授)

前橋工科大学の活動報告

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

II 特別連載 II

プログラムスケジュール	
9月1日	成田空港着 入国時オリエンテーション
9月2日	前橋市内に高速バスで移動 大学施設見学
9月3日	前橋工科大学小田垣研究室訪問 研究ディスカッション
9月4日	群馬大学作業療法学専攻訪問
9月5日	前橋工科大学在学学生を交えた研究ミーティング 群馬県立産業技術センター訪問
9月6日	前橋工科大学今村学長訪問 プログラムの成果報告および修了証の授与
9月7日	帰国

第377回

の製作について解説していただき、秋山助教からは電子ペグボードと視線計測カメラを用いた運動機能評価法を、野口助教からは振動感覚評価デバイスを説明していただきました。この訪問では、研究紹介のみならず、群馬大学で対応して下さった留学生4名とも交流ができたことも良かったです。

9月5日は、午前中に前橋工科大学の学生教員を交えた研究ミーティングを実施しました。前橋工科大学の学生による研究紹介と、招へい者からはデ・ラ・サール大学において開発を進めているリハビリテーション装置について紹介していただきました。前橋工科大学の学生は英語でプレゼンテーションをする経験が少なく心配していましたが、各発表者ともよく準備できており、問題なくプレゼンテーションできていたと思います。本プログラムにおいて、英語でのプレゼンテーションができたことは、前橋工科大学の学生にとっても良い経験であったと思います。

また、同日午後には、群馬県立産業技術センターの Digital Solution Lab を見学させていただきました。同センターは、群馬県内企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)をサポートしており、これまでの実績として、県内企業と共同で開発しているロボットや計測技術の紹介をしていただきました。今回、招へいした4名の専門分野がロボット工学であることから、同センターで紹介された種々のロボットに大変興味を持っていました。その後、群馬県伊勢崎市にある公益



修了書を授与された招へい者(前列)と今村学長(後列④)、著者の小田垣氏(後列⑤)

財団法人脳血管研究所美原記念病院のリハビリ施設を見学しました。日本のリハビリ施設の見学は初めてであり、フィリピンにおける臨床現場との違いを肌で感じる事ができ、先進的なりハビリテーション技術が実践されていることに感心していただきました。

9月6日は、前橋工科大学の今村一之学長を訪問し、本プログラムの成果を報告し、今後の交流計画等についても話し合いを行いました。さらに、本プログラムの修了証の授与を今村学長から招へい者4名に対して行っていたいただきました。

9月7日には、前橋市から成田空港へ向かいました。搭乗予定の便がキャンセルになり、振替の便での出国となるトラブルはありましたが、無事帰国の途に就きました。

本プログラムを通して、日本の先端的なりハビリ技術を体験すること、また日本で学ぶ学生との交流を深めることができたことから、当初の目的を達成できたと思います。帰国後も、オンラインでのミーティングやメールの交換が続いておりますので、今後も技術的、人的交流を深めて、より良い関係を構築していきたいと考えています。

●プログラム後日談・今後の展望

本プログラムの招へい研究者のうち2名が、10月に再び来日しました。国内の大学研究室や、企業への訪問希望があったため、大阪大学と東京女子医科大、日本通信(株)へアポイントメントを取りました。

大阪大学には前橋工科大学の今村学長が、東京女子医科大学と日本通信には小田垣が案内をしました。大阪大学と東京女子医科大学では、研究室の見学や研究のディスカッションを実施しました。もう一つの訪問先であった日本通信の福田尚久社長は、前橋工科大学の理事長を兼務していることから、今回の訪問について受け入れて頂き、研究の説明をさせて頂きました。

本プログラムの実施後、前橋工科大学の日本人学生はTOEICの勉強に取り組む学生が増えたように思います。また、海外の国際学会において発表する学生や、英語論文を執筆する学生もおり、積極的に英語に触れようとする意識が芽生えたと思います。

次年度、デ・ラ・サール大学から前橋工科大学の大学院へ1名入学する予定です。留学生が入学した後は、研究室内のプレゼンテーションや議論をなるべく英語で行えるようにと学生には伝えてあります。このように、本プログラムは日本人学生が国際的な視野を持ち、積極的に英語を学ぶ良い機会になったと感じており、今後も、技術的交流、人的交流を深めていければと考えています。